



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「男は女に触れない方がよい」

聖書 (第1コリント書7章1節)

牧師 河合裕志

上記の言葉は要するに「結婚しない方がいいよ」ということ。なぜパウロはそんなことを言うのか。そこには①切迫した終末理解があった。間もなく世の終わりが来る、主キリストが再び来て最後の審判を行う。結婚なんかしている場合ではないよ。②結婚すると妻や夫を喜ばせようという思いが強まってキリストに仕えようとする思いが第二になってしまう。……こんな考え方から結婚をすすめなかった。

ところがこの直後にこう述べる。「しかし、みだらな行いを避けるために、男はめいめい自分の妻を持ち、また、女はめいめい自分の夫を持ちなさい」。性的欲望が暴走しないための結婚をすすめている。「みだらな行い」とは娼婦と交わるとか夫・妻以外の男女の結びつきを言う。そんなことになるよりは結婚した方がよいとした。

パウロとしては「あなたがたが自分を抑制する力がないのに乗じて、サタンが誘惑しないとも限らない」(5節) ことがとても心配だった。だからパウロの論法によれば性的欲望をコントロール出来る者は結婚する必要はないということになる。彼はそうした一人だったのだろう。だから次にはっきり言う。「わたしとしては、皆がわたしのよう^にに独りでいてほしい」(7節)。

パウロは独身主義者だった。それを皆にすすめている。ところが続けてこうも述べた。「しかし、人はそれぞれ神から賜物をいただいているのですから、人によって生き方が違います」。「人によって生き方が違う」、つまり独身で生きる人もいれば、結婚する人もいるということ。そしてそれぞれが神からのプレゼントだとした。

パウロとしては独身をとるのだけれど、しかしこれを強要はしなかった。結婚もありだよ、とした。ここらあたりにパウロのバランス感覚を見る。誰も独身者や結婚をした者を悪く言うことは出来ない。

このことをふまえつつ、それにしても私は言いたい。事情が許すならば皆さん結婚してほしい、と。創世記の記事によれば、神は男と女を創造しこれを祝福して「産めよ、増えよ」と言っている。また「男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる」とある。結婚には性的方面のことと共に「互いに助け合う」ということがある。

聖書は基本的には結婚を神の定めとして祝福している。しかし独身として生きる道も神の賜物としてあることをパウロは述べた。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時